

組織を強固にして  
災害を乗り越えよう

7月20日の  
組合員数 **14,467人**



発行所

福岡県建設労働組合  
組織部長 大橋 耕二  
教宣・平和部長 隈本 正継

熊本県

全壊家屋 **545棟**

こんな時こそ

福建労の出番



2016年熊本地震当時の仮設住宅建設現場

仮設住宅建設  
人吉

実績十分の全木協  
「頼みの綱」は福建労

今回の「令和2年7月豪雨（気象庁命名）」では、熊本県を中心に77人が死亡し、9人が行方不明（15日現在）となっています。特に九州で被害が大きかった人吉市で、福建労も参加する全国建設労働組合（全建設連）と全国工務店協会（JBN）で結成している「全国木造住宅建設事業協会」（全木協）と熊本県の「災害協定」（熊本地震の時に締結）によって住む家を失った被災者向けに「応急仮設木造住宅建設」が始まり、緊急に大工技能者を募集しています。昨年11月24日には、「木造応急仮設住宅建設講習会」が開催され、自治体関係者を含め94人が参加（大工技能者26人中福建労17人参加）毎年起こる災害に備えてきました。緊急に募集している木造応急仮設住宅建設。今こそ「福建労の出番」です。被災者にプレハブでなく、仮設でも木造の温かみのある住宅建設に参加し、被災者に温かい住む場所の提供をしましょう。

【県本部 池田通信員記】  
人吉市では、2階床高に及ぶ浸水被害が多発し、20人の命を奪い、床上浸水戸数は3775戸におよびました。熊本県全体では、死者行方不明者67人、全壊家屋545棟、床上浸水5526戸、床下2030戸、避難生活者は627世帯、2023人にのぼります。（7月15日現在）  
全木協は、2016年の熊本地震で563戸の木造仮設住宅を建設。全木協が建設した木造仮設は、耐震性、断熱性が大きくプレハブ仮設を性的に上回りました。また、プレハブが工業的に生産された材料で建設するのに対し、県産材木材や畳（熊本は国内のいくさの生産量の8割を供給）を使用、地元の建材店か

7/20(15時)現在 『福建労被害状況』

支部名	集約日	自宅					倉庫等				
		全壊	半壊	一部壊	床上浸水	床下浸水	全壊	半壊	一部壊	床上浸水	床下浸水
北筑後	7日				2	3				1	
	8日				1						
	9日				1						
	10日				1					1	
	11~13日										2
	14日										
	15~20日										1
小計		0	0	0	5	3	0	0	0	2	3
中筑後	7日										2
	8日	1									
	9日				1						
	10日										
	11日~13日										2
	14日										
	15~20日					2				1	3
小計		1	0	0	1	2	0	0	0	1	7
大牟田	7日				7	5				4	
	8日				2	2			2	1	
	9日				2	2			3		
	10日				3	1					
	11日~13日					1			2		
	14日					1			4		
	15~20日				2	4					
小計		0	0	0	16	16	0	0	0	15	1
合計		1	0	0	22	21	0	0	0	18	11

ら材料を調達、地元の大工技能者や専門工事業者の雇用を支えるなど「震災からの経済復興」を大きく後押ししました。熊本県は、この震災で初めて全木協と急きよ災害協定を結びましたが、これによって熊本県から絶大な評価を受け、全木協が開催した仮設建設後の「全国研修会」に来賓参加した熊本県建築住宅局長は、「実のところ、われらにもする思いで全木協さんと協定を結んだが、それは『わら』ではなく『頼みの綱』だった」との表明がされました。  
今回の仮設建設では、現時点全てが全木協に対する発注となっています。

# 8月以降の就労者を引き続き大募集

支援が確定している大工技能者は、福岡東3人、福岡西4人、粕屋1人、筑紫3人、北九州4人、筑豊1人、嘉飯4人、北筑後1人、中筑後5人、大牟田3人（20日現在）